

特異な才能のある児童生徒 に対する指導・支援Ⅱ

才能が輝く個別最適な学びと協働的な学び

関西大学

名誉教授 松村 暢隆



独立行政法人教職員支援機構

目次

1. 特異な才能のある児童生徒の多様な指導・支援の場と方法
2. 特異な才能のある児童生徒を包摂する個別最適・協働的な学び
3. 特異な才能のある児童生徒の困難への対応

※画面上、「@まとめ」とあるのは、文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」における「審議のまとめ（令和4年9月）」の関係部分を示しています。「審議のまとめ」は右記QRコードから参照いただけます。



1. 特異な才能のある児童生徒の多様な指導・支援の場と方法

- 「才能教育」の場と方法は多様（アメリカでの実践）（@まとめ, p.5）

▼ 狭義の才能教育

[才能を識別して選抜した一部の子ども対象]（@まとめ, p.6）

- **早修**：上位学年の早期履修・単位修得（飛び級等）（@まとめ, 注9）
- **拡充**： ～ なし（才能クラス等）

- 特別プログラムの対象候補：多く収容できれば全体の1、2割

▼ 広義の才能教育

[才能は識別しないで、全ての子ども対象:先着順・抽選でも]（@まとめ, 注12）

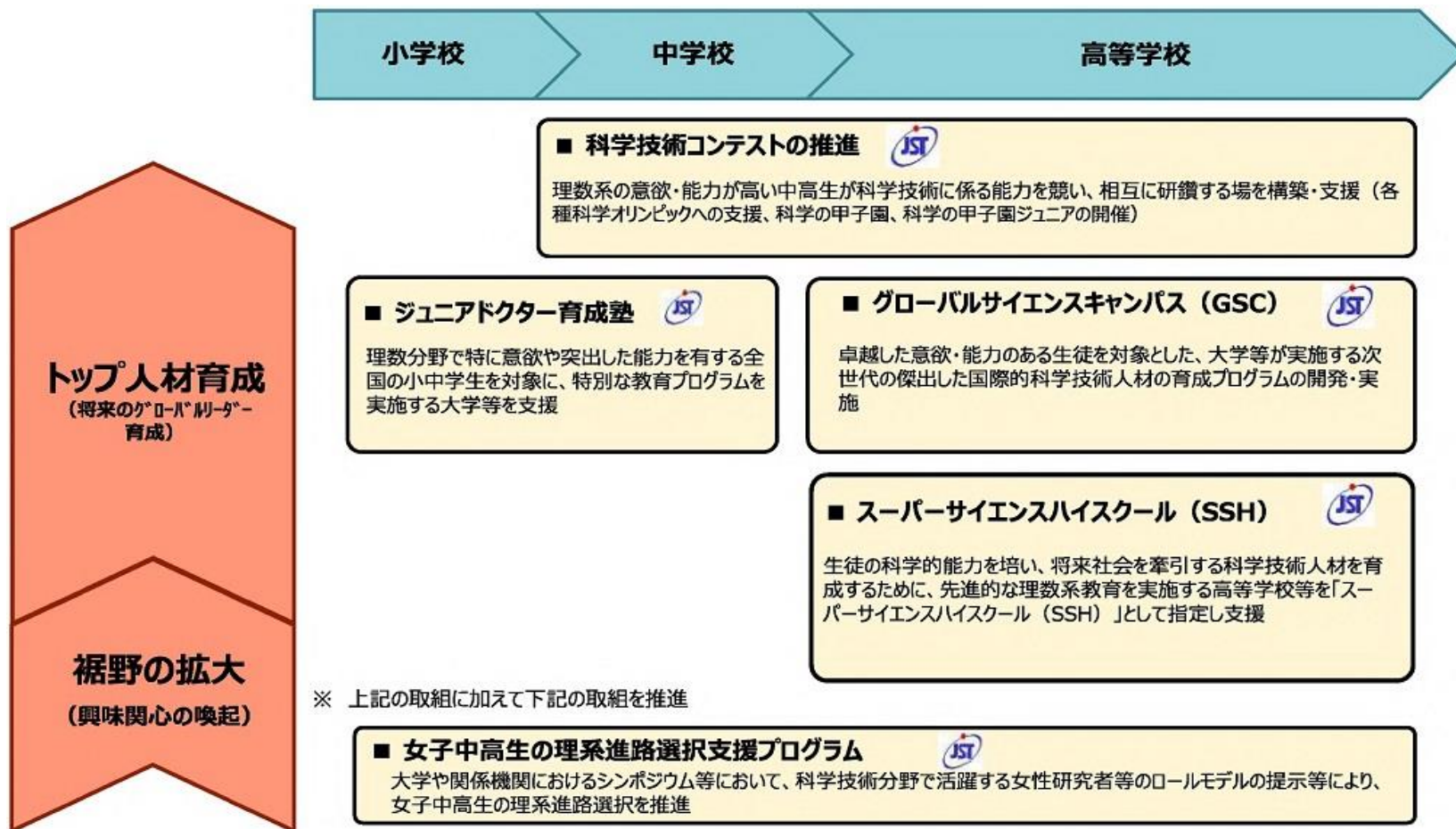
- **早修**：上位学年の単位修得（AP*、学カテストなど）[*@まとめ, 注14]
- **拡充**： ～ なし（プロジェクト学習等）

- 多様な早修・拡充プログラムが初等中等教育を通じて連携

（松村, 2021参照）

1. 特異な才能のある児童生徒の多様な指導・支援の場と方法

- トップ人材育成のための文科省の既存の取組も有意義
- ▼ 日本の初等中等教育段階における科学技術人材育成支援
 - * 広義と狭義の才能教育の拡充が組み合わせられる (@まとめ, p.8, 29)



1. 特異な才能のある児童生徒の多様な指導・支援の場と方法

● 全ての子どもを才能を活かす通常学級を拠点とした取組も重要

▼ SEM（全校拡充モデル）（Schoolwide Enrichment Model）（@まとめ, 注15）

● 広義の才能教育実践モデルがアメリカを始め普及

①学校ぐるみの指導チーム、②柔軟な学習集団により、

③全ての子ども対象の指導・学習

（指導の個別化・学習の個性化）

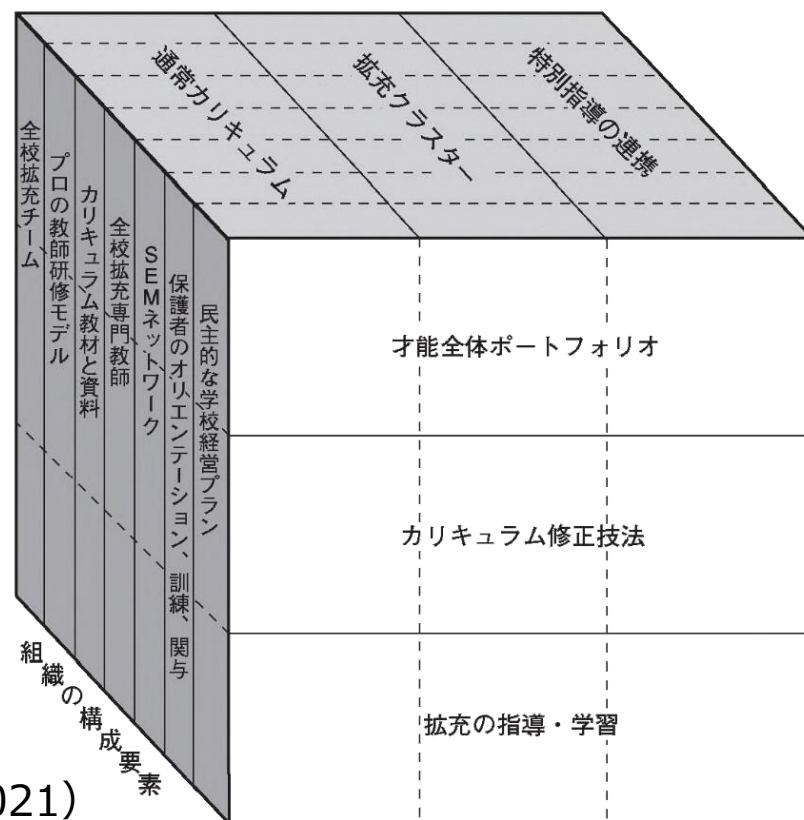
* 通常学級での教科学習がベースになる

● 個人の能力・興味・学習スタイルの違いに応じて学習内容・方法を変化

● 才能のある/学習の進んだ子どもには選択肢を広げ難度を上げる

* 日本の個別最適・協働的な学びを考える上でも参考になる

学校の構成



（レンズーリ, J.S.: Renzulli, 1995; 松村, 2021）

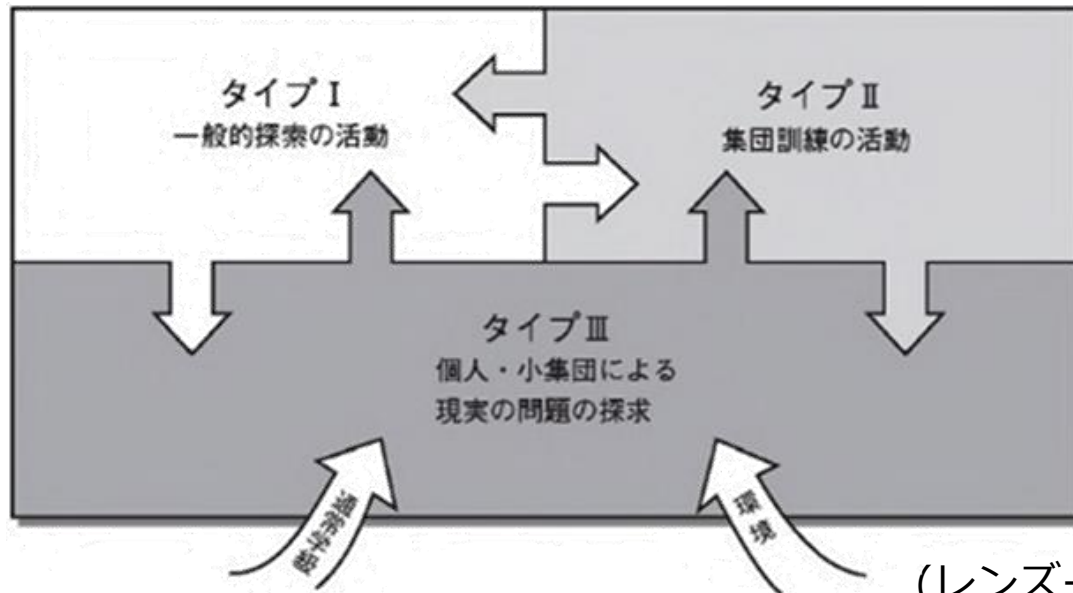
指導実施の構成要素

1. 特異な才能のある児童生徒の多様な指導・支援の場と方法

▼ 拡充三つ組モデル (Enrichment Triad Model)

• SEMの指導・学習の核となる要素

- タイプⅠの拡充：興味・関心の喚起（集団）
- タイプⅡの拡充：知識・技能の習得（小集団）
- タイプⅢの拡充：知識・技能の活用・探究（個人・小集団）



(レンズーリ, 1995; 松村, 2021)

- 発表相手を意識した本物の学習（現実の問題解決・創造）
 - 本物の成果の発表（タイプⅢの拡充）
 - 他の子どもが新たに興味（タイプⅠの拡充につながる）

2. 特異な才能のある児童生徒を包摂する個別最適・協働的な学び

- 多様性を認め合う**個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環**として
(@まとめ, 副題, p.17)

▼ 今後取り組むべき具体的な施策：実証研究を通じた実践事例の蓄積

- 子どもの関心等に合った授業や学習活動
(@まとめ, p.36)

* 選別した才能のある子に特別な指導の場所・時間を提供することは目指さない
(@まとめ, p.3)

● **学校全体の取組：T小学校の例 「子どもの主体性に配慮した学び」**

- 学び方の得意と学ぶ領域の得意を見出す (奈須, 2021) (@まとめ, p.36)

- MP(マイプラン)学習 = 単元内**自由進度学習**
学習方法を子どもたちが決める。自らの判断と責任で自由に
指導の個別化：到達度・学習時間などの個人差に応じる
- FSP(フリースタイルプロジェクト) = **自由研究学習** (個人総合)
学習方法・内容を子どもたちが決める。相談して進める
学習の個性化：興味関心や生活経験の個人差に応じる
- ※ 時間数：MP、FSP、自学・自習が2割、通常授業が8割

* 教室内で適切な環境（個別最適・協働的な学び）があれば、全ての子どもは主体的に才能特性や自分に適合する学び方を認識して伸ばす

2. 特異な才能のある児童生徒を包摂する個別最適・協働的な学び

● 教師の働きかけ

▼ 特異な才能のある児童生徒への効果的な支援の例* (@まとめ, p.14)

- 正しい答えだけでなく、「何故、そのように考えるのか」考え方を発表させてくれた先生のクラスは非常に楽しかった
- 自己肯定感が低いので、自信をつけさせる声かけをしてもらったことが有効だった
- 暇になってしまう時間に他の生徒を助けさせるなど役割を与えると授業に前向きに参加できた
- ※ 他にも、ICTの活用、特性に応じた口述や筆記の選択、支え合う、友人関係、教師間の情報共有、養護教諭・スクールカウンセラー・学校司書等による支援、学校外の学びの場などが効果的だったと回答

● 教師個人・学校で十分対応できない場合は学校外の支援の場につなげる

▼ 今後取り組むべき具体的な施策

- 学校外の学びの場の活用 (@まとめ, p.15, 21, 26, 30)
大学・民間事業者・非営利法人・教育支援センター等
(大学研究所・民間の学習の場・博物館、コンテスト等)
- 実証研究を通じた実践事例の蓄積 (@まとめ, p.36)
学習面・生活面にわたる学校と学校外の機関との連携による指導・支援の方法

* <「特定分野に特異な才能・・・有識者会議アンケート」結果より抜粋> (有識者会議4回資料1)
【対象】 特定分野に特異な才能のある児童生徒及びその保護者、学校の教師、支援団体の職員等
【実施方法】 文部科学省ウェブページを通じて回答を受付 (期間：2021年8月26日～9月17日)
【回答件数】 808件 【事例数】 980事例 (小学校段階703、中学校段階163、高等学校段階114事例)

3. 特異な才能のある児童生徒の困難への対応

- **個別最適・協働的な学びで、困っている才能のある子も共通に才能を活かす**
 - 通常学級で内容・方法が適合した学習に、才能や困難のある子も包摂
 - 「多様な児童生徒を誰一人取り残さないという観点から・・・個別最適な学びの機会を公正に確保する視点を持つ」 (@まとめ, p.24)
 - 才能や困難が多様で**異質な子どもどうしのやり取り**を通じて、互いの特性を尊重して補い合い、優れた問題解決や創造の成果が生まれる集団づくりが重要
 - **2Eの子どものニーズに応じる2E教育の理念**
 - 2Eの子どもには、**才能と障害を同時に考慮**した対応が必要
 - 例：算数・数学や文章について、時間をゆっくりかけた高度な学習
 - 通級指導教室、特別支援学級との連携、居場所の整備も必要 (@まとめ, p.25)
- ＊ **現行の仕組みを駆使**して、子どもたちの才能を伸ばせるような、多様な学びの場の保障・整備を！

▼ 参考文献

- ガードナー, H. (1999) MI:個性を生かす多重知能の理論 [松村暢隆訳, 2001]. 新曜社
- 松村暢隆 (2021) 才能教育・2E教育概論－ギフテッドの発達多様性を活かす. 東信堂
- 松村暢隆 (編) (2018) 2E教育の理解と実践－発達障害児の才能を活かす. 金子書房
- 松村暢隆 (2008) 本当の「才能」見つけて育てよう. ミネルヴァ書房 (古書のみ)
- 松村暢隆・石川裕之・佐野亮子・小倉正義 (編) (2010) 認知的個性－違いが生きる学びと支援. 新曜社
- 奈須正裕 (2021) 個別最適な学びと協働的な学び. 東洋館出版社
- レンズーリ, J. S. (1995) 個性と才能をみつける総合学習モデル [松村暢隆訳, 2001]. 玉川大学出版部 (古書のみ)
- スターンバーグ, R. J. (1997) 思考スタイル－能力を生かすもの [松村暢隆・比留間太白訳, 2000]. 新曜社 (古書のみ)
- ウェブ, J. T. 他 (2016) ギフティッド その誤診と重複診断－心理・医療・教育の現場から [角谷詩織・榊原洋一監訳, 2018]. 北大路書房

▼ 参考ウェブサイト

松村暢隆 2E教育フォーラム <http://2e-education.org/>